

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 12 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520040

研究課題名(和文) 術数学の形成とその思想的基盤

研究課題名(英文) The Formation of Study on Shushu and its Theoretical Basis in China

研究代表者

武田 時昌 (TAKEDA, TOKIMASA)

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：50179644

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：古代から近世に至る主要な科学書、術数学の読解を通して術数学の構造的把握を試み、その形成と展開の具体的様相を探った。その考察に際しては、関連分野の研究者を集めて読解ワークショップを随時開催した。そして、研究成果を踏まえて中国、韓国の科学史研究者を交えた国際ワークショップを毎年1-2回開催し、術数学というアプローチによる東アジア伝統科学研究の意義や必要性を提言し、国際的な研究プロジェクトの体制作りを推進した。

研究成果の概要(英文)：I surveyed the significant works on science and divination from ancient to modern times. I analyzed various theories developed there and tried to grasp the study of shushu structurally. Investigating their ideological and social background, the academic outline and the formative process of study of shushu were studied from wide range of viewpoint. For that purpose I gathered an interdisciplinary group of experts and had meetings regularly. In addition, inviting scholars from China and Korea, I held international workshops once or twice a year. Thus I suggested the significance and necessity of study of shushu as the approach to the study of traditional science in East Asia, and promoted to organize the international research project.

研究分野：中国思想史

キーワード：中国思想史 中国科学思想史 術数学

1. 研究開始当初の背景

中国では、古代より自然探求に深い関心を抱き、季節の変化や自然現象のメカニズムを考察して、自然科学分野の先駆的な発見、発明を成し遂げるとともに、自然界の法則性や物類の相互関係をアナロジーにして社会のあり方、人間の生き方を考究するユニークな自然哲学を展開した。その理論的基盤は易や老子の自然哲学であり、陰陽五行説を説明原理するものであったが、多種多様な言説を生み出した。そこに展開された自然と人倫の関係をめぐる思考様式はきわめて独創的であり、中国における科学思想を最も特色づけるものであるように思われる。

そのような科学思想史的なアプローチにおいて、中国の哲学、宗教と科学の境界領域に形成された思想空間を構造的に把握しようとするならば、術数学という枠組みでの議論は不可欠である。術数学は、自然科学の諸分野と易を中核とする様々な占術とが複合的に絡み合った中国に特有の学問分野である。中国には、先秦以来、卜筮や天文占、あるいは風角、六壬、太乙、遁甲、九宮と呼ばれる種々の占術が大いに発達し、数多くの術数書が著された。それらは、占いという世俗的な要素を保有しているが、数理的な側面では当時の科学知識や自然認識を基盤とするものである。そのために、象数易や天文律暦学、養生思想等と緊密な関係にあり、自然科学の諸分野の研究は、術数学という特異な学問空間においてなされたと言っても間違いではない。

ところが、これまでの思想史研究、科学史研究においては、近代の合理主義的な価値観によって思想、科学と占術とを峻別しようとしたために、儒家思想の数理的支柱である京氏易、先天易といった象数易の占いの側面すらほとんど論究されず、自然探究の占術的要素は、疑似科学として科学史、思想史研究の考察の枠外に置かれていた。そのために、術数学はほとんど研究が未開拓のままに放置されている。しかしながら、中国における自然哲学の系譜を明確にし、西欧近代科学に対峙する中国伝統科学を構造的に把握しようとするならば、術数学というコンセプトにおいて科学と占術を包括的に考究すべきであるように思われる。

これまでの研究を整理すると、以下のようになる。

(1) 中国の科学思想史に関しては、山田慶兒、坂出祥伸両氏による先駆的な研究がある。とりわけ、坂出祥伸氏の『道家・道教の思想とその方術の研究』(汲古書院、2009)等の一連の著作は、道教、中国医学との関わりにおいて占術の理論的な考察を繰り広げており、大いに注目される。しかしながら、両氏の論考には術数学という観点は希薄であり、その形成に関する考察は欠如している。

(2) 漢代の天文律暦学に関する専著には、堀池信夫氏の『漢魏思想史研究』(明治書院、

1988)川原秀城氏の『中国の科学思想：両漢天学考』(創文社、1996)、医薬学の分野では石田秀実氏の『中国医学思想史』(東京大学出版会、1992)などがあり、いずれも興味深い議論がなされているが、先秦の方術との関わりや、中世術数学への史的展開を視野に入れるものではない。

(3) 先秦の方術は、近年に新出土資料の発見によってようやく具体的な姿を窺うことができるようになった。とりわけ、一群の日書(雲夢秦簡、放馬灘秦簡、孔家坡漢簡、銀雀山漢簡等)や馬王堆帛書の『刑徳』『陰陽五行乙篇』『式法』等には、先秦の占術理論が大いに展開されている。それらについては、中国の李零、胡文輝、劉宗賢、陳松長、日本の池田知久、工藤元男、フランスの Marc Kalinowski 等の諸氏による数多くの研究があり、特に陰陽五行説の起源に関する有益な考察がなされている。ただし、中世以降の術数書との関連性を指摘するものがいくつか存在するが、簡牘、帛書の研究を主とするものであり、先秦方術から術数学への史的展開を本格的に議論しているわけではない。

(4) 武田時昌は、上記の研究を踏まえながら、これまで以下のような術数学に関する研究を行ってきた。すなわち、『五行大義』『医心方』に引用された術数書に着眼することで、術数学の学問的輪郭や理論的枠組みを考察し、陰陽五行説の中世的展開に関する検討を加えた。さらに、新出土資料の読解を通して、先秦から漢初に至る占術理論の分析を試み、中世以降の術数書の理論的枠組みが漢初までに成立していることを明らかにした。2004年4月から人文科学研究所において「陰陽五行のサイエンス」というテーマの共同研究会を組織し、2011年2月に共同研究成果報告書『陰陽五行のサイエンス 思想編』を公刊した。以上のような研究活動を通して術数学を総合的に研究する準備は十分に整備できたように思われる。そこで、中国科学思想史研究の中心的な考究課題として、術数学を総合的に考察する研究に着手することにした。

2. 研究の目的

術数学は、科学と占術が複合した中国に特有の学問分野であり、その科学知識が思想文化、宗教文化を形成するうえでユニークな役割を果たした。ところが、これまでの研究においては疑似科学として正面から取り上げられず、研究が未開拓の研究領域である。

しかしながら、科学思想史的なアプローチによって、中国における自然探求を特色づけ、その理論を構造的に把握しようとするならば、術数学という枠組みでの議論は不可欠である。そこで、本研究は、先秦の方術から漢代の思想的フィルターを通して中世の術数学がどのように形成されたのかを明確にし、その思想的基盤や道教文化との関わりを探ることで、術数学に対する総合的研究の端緒を開こうとするものである。

3. 研究の方法

術数学の形成を総合的に考察するには、先秦より漢初に至る占術が中世の術数学においてどのように継承されたのかを検討する必要がある。ただし、先秦の方術は、漢代の思想革命のなかで、大いに変容しており、そのことを十分に吟味する必要がある。また、中世以降の道教思想、科学文化との相互関連も見逃すことはできない。そこで、以下の3つの事項を考察する。

(1) 先秦方術から中世術数学への変容過程

考察に取り上げる資料は、戦国期から漢初に至る新出土資料の簡牘、帛書である。そのなかで、最も注目されるのは、放馬灘秦簡、雲夢秦簡、孔坡家漢簡等の一群の日書類であり、また馬王堆帛書のなかの陰陽五行、養生思想関連の著作(『式法』『陰陽五行乙篇』『胎産書』『雜療方』『養生方』)も取り上げる。それらと中世、近世の術数書あるいは『淮南子』や『開元占経』『乙巳占』に集録された種々の占術、敦煌出土資料の論説と比較し、数理的な考察を試みる。

(2) 災異説、讖緯説をめぐる漢代思想の影響

天人感応説の漢代的展開である災異思想、讖緯思想の流行によって、先秦の方術における科学知識が社会的ステータスを得たことに着目して、術数学の理論にどのような作用を發揮したのかを具体的に考察する。そして、京氏易や緯学が術数学にどのように理論的な影響を与えたのかを検討する。考察に取り上げる資料は、京氏易関連の著作と讖緯思想を集成した緯書を中心とし、『春秋繁露』『論衡』『白虎通』『潜夫論』等の著名な思想家の著作も合わせて考究する。それらに展開された論説を検討にすることによって、先秦から漢初に至る日書と後世の術数書との関連性がより鮮明になるにちがいない。

(3) 中世術数書の理論構造と思想的背景

主要な考察対象は、中世に成立した術数書、『開元占経』に集録された種々の占術であり、敦煌出土占術書等も読解を試みる。また、術数学関連の論説を集録した『五行大義』『医心方』や日本残存の陰陽道関連の資料には、有益な情報が満載されているので、それらを活用しながら、総合的な考察を試みる。

なお、研究を推進するに際しては、術数学関連資料のデータベースを作成するとともに、基礎文献の読解ワークショップを開催し、中国、韓国の研究者を招聘して、国際的な共同研究ネットワークを構築する。それによって、術数学という学問分野の認知度を高め、より多くの研究者を養成し、国内外において術数学の総合的な共同研究プロジェクトが本格化することを目指す。

4. 研究成果

古代から近世に至る主要な科学書、術数書を包括的に調査し、そこに展開された諸理論について数理分析することで術数学の構造的な把握を試みた。また、思想的、社会的背

景を探って術数学の学問的輪郭を明確にし、その形成と展開の具体的様相を考察した。

その考察に際しては、人文科学研究所の拠点共同研究プロジェクトとして術数学研究会を組織し、関連分野の研究者を集めて読解ワークショップや研究発表集会を随時開催した。それらの研究成果を踏まえ、2014年11月9日には日本道教学会の2014年度年会の併催イベントとして術数学国際ワークショップを主催するなど、科学史、伝統医学、道教、中国出土資料等の各学会との共催イベントを精力的に挙行し、術数学という学問分野を大いにアピールした。

また、中国、韓国の科学史研究者を交えた国際ワークショップを双方の国で開催して、術数学という枠組みでの東アジア伝統科学研究の意義や必要性を大いに提言した。中国では上海交通大学・清華大学・内蒙古師範大学等の科学史研究者、復旦大学出土文献与古文字研究中心の簡牘学研究者、韓国ではソウル大学科学史研究室を中心とする科学史研究者、韓国術数学会のメンバーとの間で研究連携を深め、国際的な研究プロジェクトの体制作りを推進した。とりわけ、韓国術数学会との2回の合同ワークショップ、すなわち2013年2月12-14日に京都大学人文科学研究所にて韓国術数学会の中心メンバー6名を招聘して実施した術数学国際ワークショップ、

2013年9月13-15日に円光デジタル大学ソウル分館にて行った日韓術数学国際シンポジウムは、四川大学の三浦國雄教授(大阪市立大学名誉教授)の研究グループとも合流して行ったイベントであり、術数学研究をメインテーマとした有意義なものであった。

成果刊行物としては、中国の科学史研究者との間では日本科学史学会の欧文誌 *Historia Scientiarum* (Vol.24, No.2) に編者として特集号を企画して2015年3月に刊行し、2012年6月21-23日にソウル大科学史研究室(代表:金永植教授)との共催で実施した(テンブルトン財団のプロジェクト支援による)国際ワークショップの成果報告論文集として2014年3月に『術数学の射程 東アジア世界の「知」の伝統』を日韓両力国語で同時に出版した(日本語版の編著者)。

推進した研究の主眼は、科学や占術について出土簡帛資料の読解を通して先秦から漢初に至る黎明期の初源的な理論を遡及的に考察し、それらが後世の中世以降の科学思想や占術理論にどのように継承されたかを検討したところにある。術数学の形成において最も大きな作用を發揮したのものとして、先秦から漢代にかけて盛行した天文律曆学、自然哲学の理論基盤として台頭した象数易、

春秋公羊学の災異説を發展させた讖緯思想及び緯書に展開された政治思想という3つ考察対象があることを浮かび上げさせ、それぞれについてとその思想的背景を考察することで、先秦方術から術数学への変容過程を探り、中世、近世的展開を構造的に把握する

ことを試みた。研究成果の具体的な内容は、次の5分野に大別できる。

(1) 天文律曆学・天文占：

音律の理論、五音の五行配当、納音等に関して、放馬灘秦簡『日書』にまとまった論述が存在することを見いだした。そこで、中世以降の術数書で唱えられた論説を系統的に整理し、その数理的基盤を遡及的に考察した。その結果、放馬灘秦簡『日書』から『淮南子』天文訓、『漢書』律曆志の間で、大きな五音配当説の置き換えがあることを指摘した。とりわけ、『太玄経』『黄帝内経』『抱朴子』で説明される納音の配当原理を分析し、放馬灘秦簡『日書』に見られる所論と比較することで、初源的数理を探り当てることができた。また、二十八宿の星度(距度)配日法についても同様の検討を行い、馬王堆漢墓出土『五星占』『天文氣象雜占』に論述された顛項曆の五星星運動論や天文占の数理を解析することで、先秦から漢にかけて数理天文学が発達していく過程で占術の諸技法が基盤とする天文知識がどのように変化してきたかについて具体的様相を探った。さらに、漢代の曆法(大初曆、三統曆、四分曆)への理論的発展を明確にし、正史天文志、緯書及び『開元占経』に集録された唐までの天文占理論の史的展開を考察した。宇宙論の変遷についても、『周髀算経』の蓋天説や張衡『靈憲』の渾天説に思想史的な考察を加えたが、仏教天文学や西洋の宇宙構造説の受容をめぐる相互関係については今後の課題とする。

(2) 算術：

岳麓書院藏秦簡『数』、張家山漢墓出土『算数書』と『九章算術』との比較を行い、中国数学の基礎理論の形成を考究した。岳麓書院藏秦簡『数』については、大阪産業大学の古算書研究会のメンバーとともに訳注作業を行い、全訳を完成させ、さらに『九章算術』の翻訳も試みた(武田は、『数』の盈不足術、『九章算術』巻5、商功章の訳注を分担)。2014年4月6日には古算書研究会との共催で胡平生氏(中国文化遺産研究員)を招聘して算術書に関する最新の出土情報に関する特別講演会を開催した。また、2013年3月8-10日に京都大学人文科学研究所にて実施した東アジア数学史国際ワークショップ(実施委員長:小林龍彦前橋工科大学教授)&科学史国際シンポジウム2013(実施委員長:武田時昌)において、数学史を中心とする北京、上海、内蒙古の研究者に術数研究の目的や意義を提言し、科学史研究の新たな研究指針について協議した。

(3) 医薬学・養生術：

馬王堆漢簡『足臂十一脈灸経』『陰陽十一脈灸経』『五十二病方』『胎産書』『養生方』、張家山漢簡『脈書』『引書』等を読解し、漢初までに発達した医薬学(灸法、薬物療法)の基礎理論や道家養生思想の長生術を考察し、『黄帝内経』の鍼灸理論、張仲景方以降の経方書の薬物療法、道教の煉丹術、身体技

法や養生法のルーツを探った。術数学の研究の場がどこにあるのかを明確にするために、中世、近世における薬物療法において万能薬として重用されたものに着眼し、その方剤が開発され、人々に浸透していく過程を追跡することで、本草学や医術の専門家と道士、僧侶から政府の高官、または在野の知識人とが往来し、交叉する術数学の空間が形成されていることを突き止めた。

その作業において、『医心方』に引用された書物の本文データベースを作成した。研究成果を踏まえた伝統医療文化の理論的特質や社会的作用に関する多角的な考察は、月刊誌の『医道の日本』に「鍼灸パラダイム談義」として連載した。死生観、自然観や身体論の形成に関する道教文化の影響について、神仙思想や道教の研究者を招聘して特別講演会を開催し、魂魄観、修養法(内丹)、仙薬(外丹)、呪法等について医薬書、術数書との関連性をめぐって討議した。術数学と宗教文化の相互関連は大きな考究課題であるので、今後さらに深めていきたいと考えている。

(4) 占術：

放馬灘秦簡、雲夢秦簡、孔坡家漢簡、九店楚簡等の日書、馬王堆出土帛書『刑徳』『式法』『陰陽五行乙篇』、張家山漢簡『蓋廬』には、これまで手がかりが乏しかった中国古代の占術に対する新情報が満載されている。そこで、中世、近世の術数書や曆注及び日本の陰陽道資料に見られる占術の諸技法との連続性を検討するという新たなアプローチでの考察を試み、孤虚、建除、叢辰等の中国占術の初源的数理を探り、後世的な展開を追究した。また、納音を含む音律学、兵陰陽と呼ばれる兵術に応用された占術を検討し、天地人の三才の道をコンセプトにして術数学的な思想の枠組みが形成され、先秦の占術理論を基盤として術数学が成立していく過程を明確にすることができた。

その読解作業を行うに当たっては、山梨県立大学の名和敏光准教授、南京師範大学の小澤賢二客座教授、早稲田大学文学研究科博士後期課程の小倉聖氏に協力を仰いだ。2014年9月中旬には名和、小澤両氏とともに上海出張し、2014年9月22日に復旦大学出土文献与古文字研究中心の簡牘学研究者と共同研究発表会を実施し、翌々日の2014年9月24日には上海交通大学にて講演を行った。武田時昌は、それらの会議において科学史や古代思想史における術数研究の意義を提言した。また、大野裕司氏(北海道大学文学研究科O.D.)をリーダーとする術数研究会の協力を得て、彦根市博物館所蔵の琴堂文庫占術書を調査し、目録データベースを作成した。

(5) 京氏易・断易：

漢代象数易とりわけ京氏易が漢代思想革命をフィルターにして方術から術数学への変容に理論基盤を提供したことを明らかにし、京氏易の中世、近世的展開を追跡した。とりわけ、近世に流行した断易、五行易の主

要文献(『火珠林』『卜筮元龜』『断易天機』等)の読解を通して、漢代の京氏易や宋代の先天易を代表とする象数易が占術理論の形成と展開にどのような作用を發揮したかを検討した。断易関連文献の読解作業は、国際基督教大学の古藤友子教授をリーダーとする断易研究会と共同で実施した。また、2012年8月に天地瑞祥志研究会(代表:水口幹記藤女子大学准教授)と陽明文庫、大將軍八神社皆川家文書、京都府立総合資料館若杉家文書、2013年2月に北海道大学易占研究グループ(代表:近藤浩之北海道大学教授)と京大附属図書館清家文庫、春日大社などにおいて合同で文献調査を行い、研究討論会を開催した。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計44件)

TAKEDA TOKIMASA, Introduction(Special issue: New Historical Researches on East Asian Science), HISTORIA SCIENTIARUM, 査読無, 24-2, 2015, 47-49

武田時昌, マカオの西洋式病院と油薬 南蛮医術の伝承者(2), 医道の日本, 査読無, 859, 2015, 144-145

武田時昌, ポルトガル貿易商の外科手術 南蛮医術の伝承者(1), 医道の日本, 査読無, 858, 2015, 174-175

武田時昌, 医は意なり 名医の条件, 医道の日本, 857, 査読無, 2015, 184-185

武田時昌, 張替俊夫, 『九章算術』訳注稿(16), 大阪産業大学論集 人文・社会科学編, 査読有, 23, 2015, 68-99

<http://journal.osaka-sandai.ac.jp/pdf/23-067-099.pdf>

武田時昌, 医トと精誠 大医になる道, 医道の日本, 856, 査読無, 2015, 252-253

武田時昌, 医学概論のなかの漢方医学 澤瀉久敬の先見的試み, 医道の日本, 査読無, 855, 2014, 156-157

武田時昌, デング熱・恙虫病と沙蚕病 風土病のグローバル化に思う, 医道の日本, 査読無, 854, 2014, 148-149

武田時昌, 白隠流養気術の系譜 「病は気から」論(2), 医道の日本, 査読無, 853, 2014, 158-159

武田時昌, 小寺裕, 張替俊夫, 『九章算術』訳注稿(15), 大阪産業大学論集 人文・社会科学編, 査読有, 22, 2014, 1-30

http://journal.osaka-sandai.ac.jp/pdf/01-030_20141113.pdf

武田時昌, モリエール喜劇の医者批判 「病は気から」論(1), 医道の日本, 査読無, 852, 2014, 154-155

武田時昌, 元気になる医術 中神琴溪の元氣論, 医道の日本, 査読無, 851, 2014, 148-149

武田時昌, 人体解剖を行った鍼医、整骨医, 医道の日本, 査読無, 850, 2014, 174-175

武田時昌, 採薬記念日としての端午の節句, 医道の日本, 査読無, 849, 2014, 166-167

武田時昌, 岳麓書院蔵秦簡『数』訳注稿(6),

大阪産業大学論集 人文・社会科学編, 査読有, 21, 2014, 1-16

http://journal.osaka-sandai.ac.jp/pdf/20140630_01.pdf

武田時昌, 辟穀と木食 東洋的断食療法の源流, 医道の日本, 査読無, 848, 2014, 190-191

武田時昌, 伝統医療の文化多様性を探る, 医道の日本, 査読無, 847, 2014, 162-163

武田時昌, 科学史研究室デジタル・アーカイブの構築, 東アジア人文情報学センター研究年報, 査読無, 2013, 2014, 3-10

武田時昌, 古本草書の環流現象, 東アジア人文情報学センター研究年報, 査読無, 2013, 2014, 25-31

武田時昌, 記憶と忘却をめぐる医術, 医道の日本, 査読無, 846, 2014, 162-163

②武田時昌, 我が医学戦線異状あり 漢方復興の革命児・中山忠直伝(2), 医道の日本, 査読無, 845, 2014, 160-162

②武田時昌, ハレー彗星とクロポトキン 漢方復興の革命児・中山忠直伝(1), 医道の日本, 査読無, 844, 2014, 226-227

③武田時昌, 『医心方』を伝える 医療文化史サロン展 2013 を終えて, 医道の日本, 査読無, 843, 2013, 174-175

④武田時昌, 漢城・ソウルの良医に出会う, 医道の日本, 査読無, 842, 2013, 186-187

⑤武田時昌, 二日灸と月見鍼, 医道の日本, 査読無, 841, 2013, 174-175,

⑥武田時昌, 東アジアの万能薬 近世方剤学の術数学的要素, 東アジアにおける術数学への多角的アプローチ(韓国術数学会編), 査読無, 2013, 209-234

⑦武田時昌, 検校になった人々 鍼技師の原像, 医道の日本, 査読無, 840, 2013, 164-165

⑧武田時昌, 東洋のテリアカを捜せ 万能薬の文化史(3), 武田時昌, 医道の日本, 査読無, 839, 2013, 190-191

⑨武田時昌, ケン坊主の甘い誘惑 万能薬の文化史(2), 医道の日本, 査読無, 838, 2013, 172-173

⑩武田時昌, 茶の功德と養生 万能薬の文化史(1), 医道の日本, 査読無, 837, 2013, 164-165

⑪武田時昌, 近世日本の上方温泉論争 東と西の温泉医学(3), 医道の日本, 査読無, 836, 2013, 168-170

⑫武田時昌, お雇い外国人の温泉研究とその周辺 東と西の温泉医学(2), 医道の日本, 査読無, 835, 2013, 206-207

⑬武田時昌, 天の時、地の利を推す兵法 兵陰陽の占術理論、中国思想史研究, 査読無, 34, 2013, 25-50

⑭武田時昌, 入浴忌避と飲泉療法 東と西の温泉医学(1), 医道の日本, 査読無, 834, 2013, 172-173

⑮武田時昌, 名宰相ディーの探偵術と鍼技, 医道の日本, 査読無, 833, 2013, 168-169

⑯武田時昌, 病魔退散の正月習俗, 医道の日本, 査読無, 832, 2013, 230-231

- ③⑦武田時昌、七草粥の習俗と健康思想、医道の日本、査読無、831、2012、194-195
- ③⑧武田時昌、蘇・沈が語る良方と善医 医経を読んだ人々(5)、医道の日本、830、査読無、2012、180-181
- ③⑨武田時昌、運氣論を流行らせたのは誰か 医経を読んだ人々(4)、医道の日本、査読無、829、2012、218-219
- ④⑩武田時昌、宋儒の『素問』成立年代考 医経を読んだ人々(3)、医道の日本、査読無、828、2012、184-185
- ④⑪武田時昌、北宋の儒者、道士の素問読書法 医経を読んだ人々(2)、医道の日本、査読無、827、2012、200-201
- ④⑫武田時昌、『太素』の訳稿とデータベース 医経を読んだ人々(1)、医道の日本、査読無、826、2012、204-205
- ④⑬武田時昌、東アジア科学史研究の新展開 術数学研究プロジェクト、第1回 Templeton「東アジアの科学と宗教」国際ワークショップ「東アジア世界の「知」の伝統：科学と思想、宗教のあいだ」予稿集、査読無、2012、2-12
- ④⑭武田時昌・田村誠、『九章算術』訳注稿(14)、大阪産業大学論集 人文・社会科学編、査読有、15、2012、1-17
<http://journal.osaka-sandai.ac.jp/pdf/001-018tt.12.10.pdf>

〔学会発表〕(計16件)

- 武田時昌、大正から昭和前期における漢方医学復興運動、第42回日本伝統鍼灸学会学術大会、2014年10月26日、ユープラザうたづ(香川県綾歌郡宇多津町)
- 武田時昌、東アジア世界の近世科学文化理論的革新とその源流、科学史と科学文化研究院国際学術交流報告会(招待講演)、2014年9月24日、上海交通大学陳瑞球106室(中華人民共和国・上海市)
- 武田時昌、日本における科学史研究の現状、術数学ミーティング2014 in 上海、2014年9月22日、復旦大学出土文献与古文字研究中心会議室(中華人民共和国・上海市)
- 武田時昌、近代日本の食養生、第2回飲食文化研究会(招待講演)、2014年3月29日、国際基督教大学国際会議室(三鷹市)
- 武田時昌、納音数理考、術数学東京ミーティング2014、2014年3月28日、大正大学巣鴨校舎5号館551教室(東京都豊島区)
- 武田時昌、東アジアの万能薬とその治療法、京都府医師会・医学史研究会学術講演会(招待講演)、2013年10月31日、京都府医師会館会議室(京都市)
- 武田時昌、鍼灸師論 名医、良医の歩んできた道、第41回日本伝統鍼灸学会学術大会(招待講演)、2013年9月30日、京都エミナス大会議室(京都市)
- 武田時昌、東アジアの万能薬 近世方剤学の術数学的要素、日韓術数学シンポジウム「東アジアにおける術数学への多角的アプ

- ローチ」、2013年9月21日、円光デジタル大学ソウルキャンパス(大韓民国・ソウル市)
- 武田時昌、明末清初の象数学研究、術数学国際ワークショップ2013-7「術数学と宗教文化」、2013年7月21日、京都大学人文科学研究所分館大会議室(京都市)
- 武田時昌、兵陰陽の占術理論「三才の道」をめぐって、術数学東京ミーティング2013、2013年3月18日、大正大学巣鴨校舎1号館第2会議室(東京都豊島区)
- 武田時昌、東アジア伝統科学の思想史的アプローチ、東アジア科学史国際ワークショップ2013、2013年3月10日、京都大学人文科学研究所本館セミナー室1(京都市)
- 武田時昌、断易の数理とその問題圏 日本的受容を中心に、術数学国際ワークショップ2013、2013年2月13日、京都大学人文科学研究所分館大会議室(京都市)
- 武田時昌、伝統科学から見た東アジア世界の近代化、ICU科学史フォーラム(招待講演)、2012年12月14日、国際基督教大学本館215号室(三鷹市)
- 武田時昌、鍼術、灸法の思想史的考察、第41回日本伝統鍼灸学会学術大会(招待講演)、2012年9月27日、江戸川区総合区民ホール(東京都江戸川区)
- 武田時昌、人文研所蔵術数書と新城新蔵、術数学ワークショップ2012-8、2012年8月25日、京都大学人文科学研究所本館セミナー室1(京都市)
- 武田時昌、東アジア科学史の新展開 術数学研究プロジェクト、第1回 Templeton「東アジアの科学と宗教」国際ワークショップ、2012年6月21日、ソウル大学奎章閣会議室(大韓民国・ソウル市)
- 〔図書〕(計2件)
- 武田時昌(編者)、金永植、古藤友子他16名による共著、京都大学人文科学研究所、術数学の射程 東アジアの「知」の伝統、2014、231(序文と「東アジア科学史研究の新展開 術数学研究プロジェクト」を分担執筆、3-14)
- 尾池和夫・竹本修三(編者)、武田時昌、金文京他25名による共著、マニュアルハウス、天地人 三才の世界、2014、503(「天の時、地の利を知る科学」を分担執筆、395-415)
- 〔その他〕
- 術数学基礎資料データベースの公開：
<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~takeda/>
6. 研究組織
- (1)研究代表者
 武田 時昌(TAKEDA TOKIMASA)
 京都大学・人文科学研究所・教授
 研究者番号：50179644
- (2)研究分担者
 なし
- (3)連携研究者
 なし